

1 5 1 《聖マタイの召命》に影響した2枚の厳選絵画

2 0 2 6

真鍋友範

1 はじめに

カラヴァッジョの描く《聖マタイの召命》に深く影響を与えた先人画家とは誰なのだろうか。



仮に、私がこの質問を受けたなら、迷いなく挙げられるのは、レオナルド・ダ・ヴィンチと、ジョルジョーネだ。

2 最期の晩餐

カラヴァッジョが絵画を学んだ地ミラノには、偉大な先人レオナルド・ダ・ヴィンチが残した作品《最期の晩餐》や《岩窟の聖母・ロンドン版》があった。

当然、カラヴァッジョは足を運び、おおいにレオナルド絵画の研究をしたことだろう。

まず、《岩窟の聖母・ロンドン版》からは、後々描くことになる複雑な明暗表現の出発点となる、【岩窟に差し込む光による明暗表現】を確認したのであろう。

更には、《最後の晩餐》の場面左端に登場するバルトロマイとされる弟子に関心を持ったと思われるのだ。

何故か。

その理由は、バルトロマイの姿勢にある。

バルトロマイは、テーブルに寄り掛かっている。

この机に寄り掛かった姿勢とは、立ってないが、逆に座ってもいないという姿勢だ。

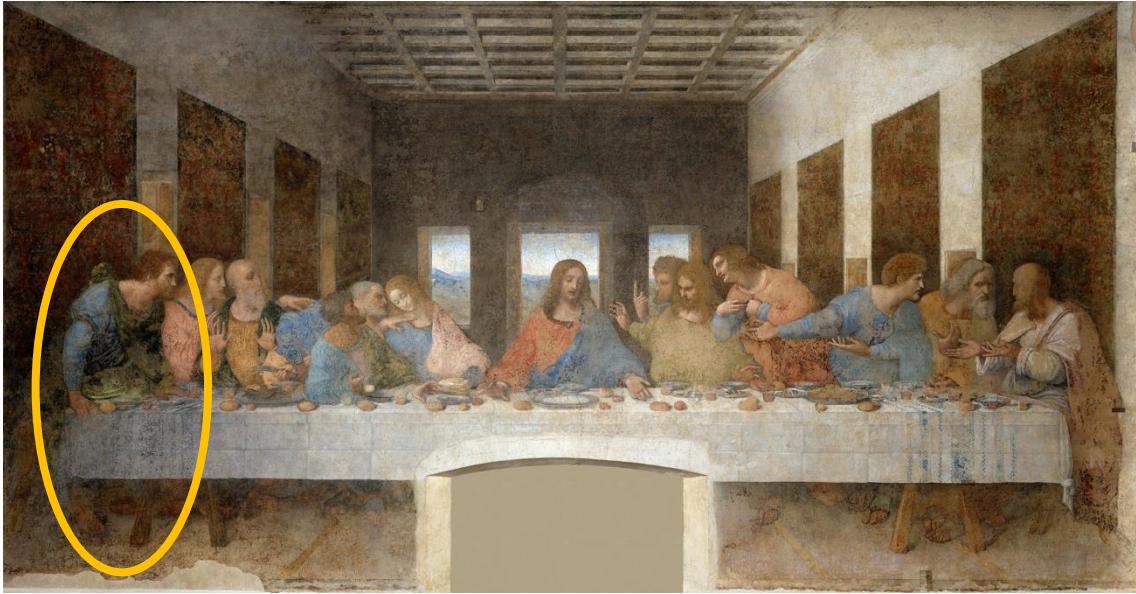
この姿勢の人物は、一見立っているように見えても、実際には立っていない。

この事実を、カラヴァッジョは、聖マタイの召命に於いて、イエスからの召命を受ける眼鏡の収税吏の描画ヒントにした可能性は高い。

何故なら、眼鏡の収税人は、立っていない為、イエスに呼ばれたならば、立ち上がる必要があるからだ。

聖書のマタイによる福音書内の記述に、しっかりと当てはまる。

何故なら、聖書には、イエスが椅子から立ち上がったとは、記述されていないのだ。



*バルトロマイは、左端の立ち上がり机に寄りかかる人物（イエロー枠内）

3 人生の三世代

もう一枚は、ジョルジョーネの描いた通称《人生の三世代》と題された作品だ。

1 右端に描かれた緑色の衣服のイエスの横顔は、カラヴァッジョの《聖マタイの召命》に描かれたイエスの横顔に近似している。

2 イエスの左手の人差し指は、力が込められていない。

理由は、指さす動作ではないからなのだ。その意味とは、【そこにある】と、漠然とした領域範囲を指定する動作だ。

この動作を、カラヴァッジョは、【あそこにいる人】と、肩を中心に垂直回転運動した右手の動作に置き換えている。

3 《人世の三世代》での三人の登場人物の立ち位置には、小さなサークルを描くように閉じられたグループ化が見られる。これは、聖マタイの召命に於いても、同様のサークル状のグループ配置となっている。

4 人物配置の規則性が、両作品で同一である。

《人世の三世代》

右端にイエス 中央付近に帽子の若者

左端に老高位聖職者

《聖マタイの召命》

右端にイエス 中央付近にボディガードの若者 左側に眼鏡の老収税吏



* 《人生の三世代》 ジョルジョーネ

[PREV](#) ← ● → [NEXT](#)
[眼鏡の聖マタイトップページへ](#)